教職員研修資料

ICT等を活用した

不登校の児童生徒への「学びを止めない」「心を近づける」学習支援　実践事例

□ 本道の**不登校児童生徒数**は、1,000人当たり、小学校8.3人、中学校45.8人、高校9.1人であり、**7年連続で増加傾向、長期化傾向**がみられます(令和元年度調査結果)。

□ 不登校となった場合でも、**児童生徒の教育機会を確保**し、学習意欲の維持・向上等に向け、**学校が一体となった支援**が必要です。

□ 学校でのICT環境の整備が進む中、道内外の実践事例を参考に、**ICT等を活用した学習支援**を始めましょう。

Contents

□ 道内のICT等を活用した学習支援の事例

Case 1　小学校　Zoomを活用した交流
Case 2　小学校　Zoomを活用した授業配信
Case 3　中学校　タブレット端末を貸与し、オンライン学習を実施
Case 4　中学校　Google Meetを活用した授業配信
Case 5　中学校　Web会議サービスを活用した授業配信
Case 6　高　校　Zoomを活用した個別指導
Case 7　中学校　ｅラーニングを活用したオンライン学習

□ 道外の取組事例

Case 8　福岡市　教室で行う授業配信

□ 自宅におけるＩＣＴ等を活用した学習活動を指導要録上出席扱いとすることについて

○　**不登校は、**取り巻く環境によっては、**どの児童生徒にも起こり得る。**
○　不登校そのものは**問題行動ではない**ことを児童生徒・保護者に知らせる。
○　個々の不登校児童生徒の状況に応じた**多様な支援が必要**となる。
○　支援に際しては、学校復帰という結果のみを目標とするのではなく、児童生徒の**社会的自立を目指す**必要がある。

不登校対応の基本方針です。
全教職員で理解を深めましょう。

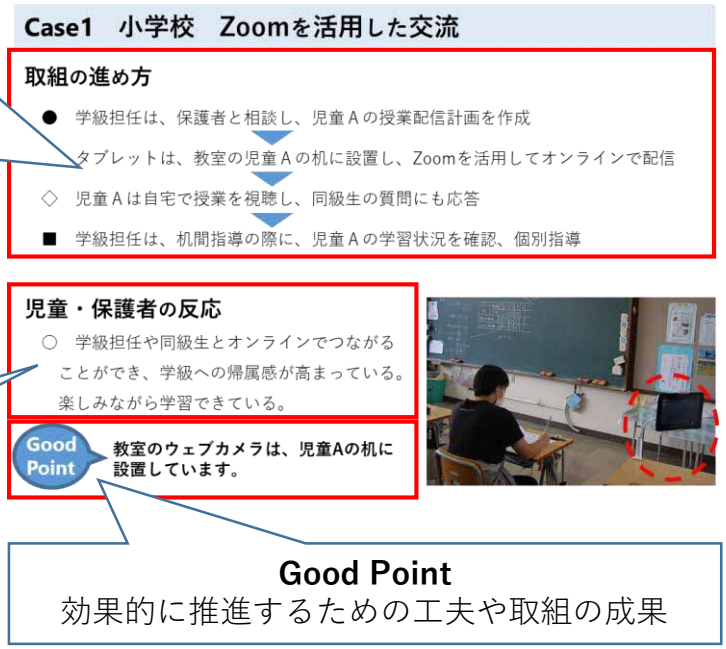
北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課
令和３年(２０２１年)３月

本資料の活用にあたって

Case1～8は、次の項目で整理し、まとめています。

取組の進め方
●～学習前に実施
・学習計画の立案
◇～授業（学習）の実施
・授業の特色
・支援上の配慮事項
■～学習後に実施
・学習状況の把握
・個別指導の実施

児童生徒・保護者の反応
児童生徒の変容や、児童生徒及び保護者の感想等



Good Point
効果的に推進するための工夫や取組の成果

Case1　小学校　Zoomを活用した交流

取組の進め方

● 学級担任は、保護者と相談し、児童Aの授業配信計画を作成

◇ タブレットは、教室の児童Aの机に設置し、Zoomを活用してオンラインで配信

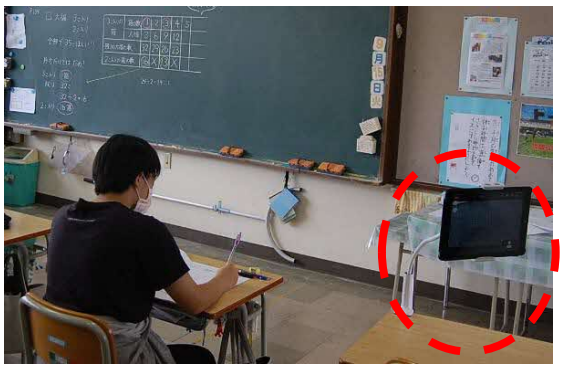
◇ 児童Aは自宅で授業を視聴し、同級生の質問にも応答

■ 学級担任は、机間指導の際に、児童Aの学習状況を確認、個別指導

児童・保護者の反応

○ 学級担任や同級生とオンラインでつながることができ、学級への帰属感が高まっている。楽しみながら学習できている。

Good Point **教室のウェブカメラは、児童Aの机に設置しています。**



Case2　小学校　Zoomを活用した授業配信

取組の進め方

● 管理職、学級担任は、保護者と相談し、児童Ｂの授業配信計画を作成

◇ ＰＣ、ウェブカメラは、教室の後方に設置し、Zoomを活用してオンラインで配信

◇ 児童Ｂは自宅で授業を視聴し、話合い活動にも参加

■ 学級担任は、家庭訪問の際に、学習状況を確認

児童・保護者の反応

○ 学習の遅れに不安を感じていたが、安心して学習に取り組み、学習意欲が高まった。休み時間には、友だちとZoomを活用して交流している。現在、登校への意欲が高まりつつある。

Good Point

教室移動の際も、カメラを持ち運び、授業を配信しています。
休み時間も交流の機会をつくっています。

Case3　中学校　タブレット端末を貸与し、オンライン学習を実施

取組の進め方

● 学校はタブレット端末を生徒Ｃに貸与し、学習支援コンテンツにより計画を作成

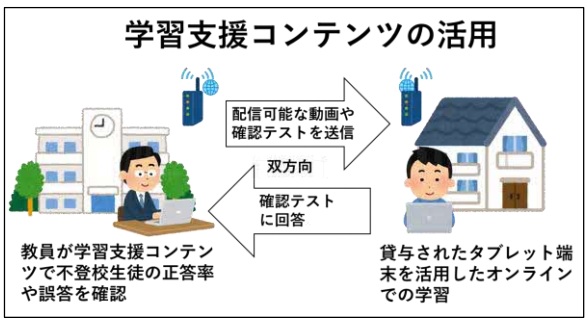
● 教科担任が、コンテンツの動画や確認テストを生徒Ｃのタブレット端末に送信

◇ 生徒Ｃは自宅で動画を視聴し、確認テストに解答、解答を教科担任に送信

■ 教科担任は、解答を確認し、家庭訪問で学習支援

生徒・保護者の反応

○ 学習の遅れに不安を感じていたが、タブレット端末を活用して学習したことで、学習内容が分かり、不安が軽減した。



Good Point

自分のペースに合わせて、動画の視聴や確認テストの取組を継続しています。

Case4　中学校　Google Meetを活用した授業配信

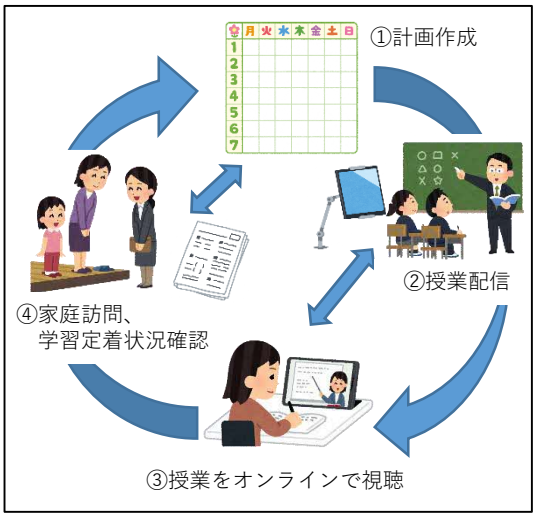
取組の進め方

● 学級担任は、生徒Ｄ、保護者と相談し、授業配信計画を作成

◇ ＰＣ、ウェブカメラは、教室の後方に設置し、Google Meetを活用して授業を配信

◇ 生徒Ｄは自宅で授業を視聴

■ 学級担任等は、家庭訪問で学習状況を確認し、個別指導



生徒・保護者の反応

○ 生徒、保護者ともに、配信される授業への参加が「自らの居場所づくり」につながり、不登校の解消へとつながった。

Good Point **授業配信により「不安感」を「安心感」に変えています。**

Case5　中学校　Web会議サービスを活用した授業配信

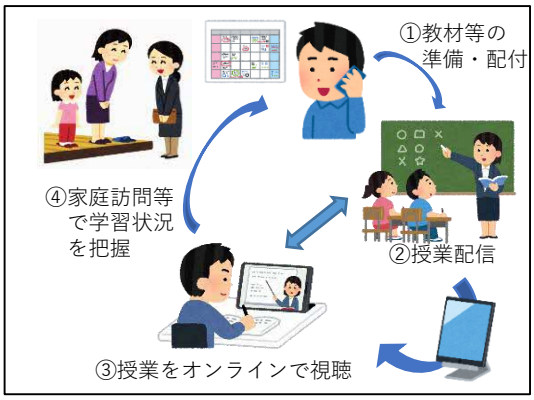
取組の進め方

● 学級担任は、生徒Ｅに授業で使用するプリント等を事前に送信

◇ ウェブカメラは、学級全体が見えるよう設置し、授業と休み時間の様子を配信

◇ 生徒Ｅは、事前送付されたプリントをもとに授業を視聴

■ 学級担任は、家庭訪問等で学習状況を把握し、補充的に指導



生徒・保護者の反応

○ 授業や、同級生の休み時間での雰囲気を視聴することで、登校に向けて意欲が高まり、登校できるようになってきた。

Good Point **学級の雰囲気が分かるよう、休み時間の様子も配信しています。**

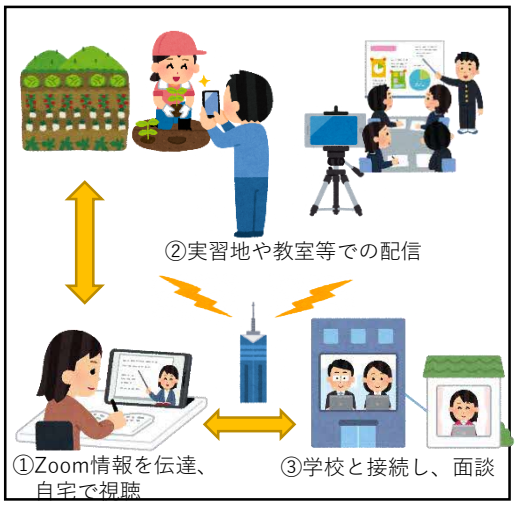
Case6　高校　Zoomを活用した個別指導

取組の進め方

● 学級担任は、生徒Ｆと Zoomにより打合せをし、学級の時間割に沿って授業を配信

◇ 生徒Ｆは、自宅で教室での授業や屋外実習の様子を視聴し、ディベートにも参加

■ 学級担任は、Zoomで生徒Ｆと面談し、学習状況を確認



生徒・保護者の反応

○ 生徒Ｆは、Zoomでの授業を新鮮に感じていた。クラスメイトと授業を受けたことから、安心感を得ることができた。

Good Point

屋外実習やディベートなどの授業の様子を幅広く配信しています。

Case7　中学校　ｅラーニングを活用したオンライン学習

取組の進め方

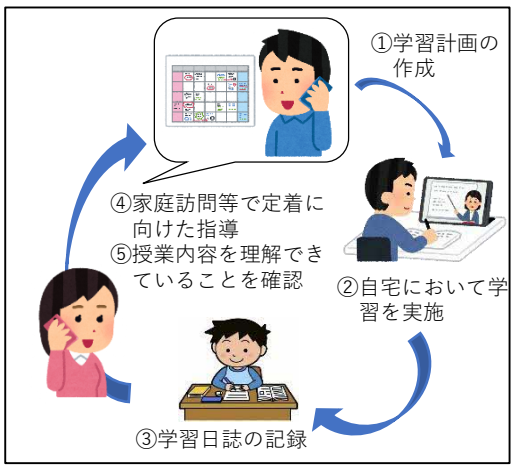
● 生徒Ｇは、学級担任や保護者と相談して、学習計画を作成

◇ 生徒Ｇは、「ｅラーニングシステム」「NHK for School」を活用して学習

◇ 生徒Ｇは、学習した内容と十分に理解できなかった問題等を学習日誌に記録

■ 学級担任は、家庭訪問で学習日誌をもとに理解が不十分だった内容を指導

■ 生徒Ｇは、学校の授業での確認テストに取り組み、理解の度合いを確認



生徒・保護者の反応

○ 自分で学習計画を立て「eラーニング」等に取り組んだことで、学習の遅れに対する不安もなくなり、登校につながった。

Good Point

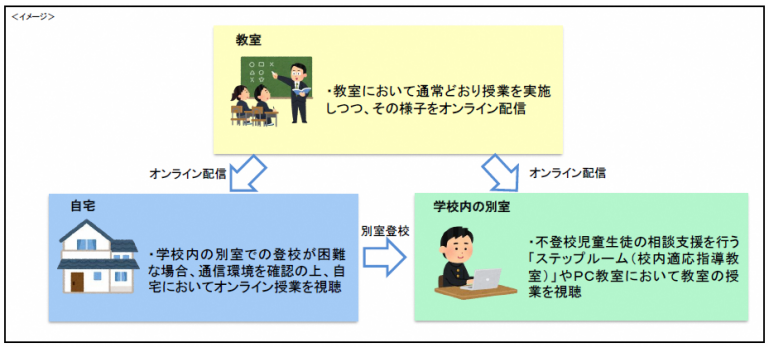
生徒の理解をサポートするｅラーニングシステムを取り入れています。

Case8　福岡市　教室で行う授業配信

● 児童生徒と保護者がオンライン学習を希望する場合、学校と事前に打合せを実施

◇ 校内適応指導教室やＰＣ教室に授業配信

◇ 学校内の別室での授業が困難な場合、自宅に授業配信



自宅におけるＩＣＴ等を活用した学習活動を指導要録上出席扱いとすることができます！

義務教育段階においてＩＣＴ等を活用した学習支援を行った場合、**一定の要件を満たす**ことにより、**校長の判断**で**指導要録上出席扱い**とすることができます。

ＩＣＴ等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出席扱い

① 保護者と学校との十分な**連携・協力関係**
② **ＩＣＴや郵送、ＦＡＸなどを活用**して提供される学習活動
③ **訪問等による対面指導**が適切に行われることを前提
④ 学習の理解の程度を踏まえた**計画的な学習プログラム**を実施
⑤ 校長は、定期的な報告や連絡会の実施などにより、**対面指導や学習活動の状況を把握**
⑥ 出席扱いとするのは、基本的に当該児童生徒が**学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けられない**ような**場合**
⑦ 当該学習の計画や内容が**学校の教育課程に照らし適切と判断**される場合、**学習活動の成果を評価に反映**

○ 出席扱いとした場合の指導要録上の表記について

・出席日数の内数として、出席扱いとした日数と「自宅においてＩＣＴ等を活用した学習活動による」ことを記入する。

（例）出席日数100日（うち出席扱い20日（自宅でのオンライン授業配信による））

＜参考通知＞

・「不登校児童生徒に対するＩＣＴ等を活用した学習支援について」
（令和２年（2020年）12月14日付け教生学第701号　生徒指導・学校安全課長通知）
・「不登校児童生徒への支援の在り方について」
（令和元年（2019年）11月６日付け教生学第668号　学校教育局長通知）